

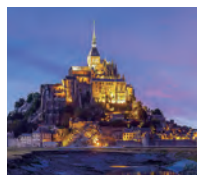
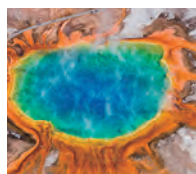
GLOBAL VOYAGE

[グローバル ヴォヤージュ]

PEACE BOAT

2025

Spring



世界遺産検定マイスターによる 世界遺産 入門篇

第二特集

七つの丘に抱かれる陽光の都市

リスボン

[発行] (株) ジャパングレイス

世界遺産検定マイスターによる

世界遺産 入門篇



旅先に「世界遺産がある」と聞くと、ぜひ訪ねてみたいと思うのですが、そもそも世界遺産とは何か、知っていますか。また、世界遺産はどのような基準で選ばれるか、世界や日本にはどのくらい世界遺産があるのでしょうか。意外に知らない世界遺産の基礎知識を、世界遺産検定マイスターが指南。旅に出る前に読んでおくと、現地での見方や感動がひと味もふた味も違ってくるはずです。

片岡 英夫

KATAOKA Hideo

一般社団法人「世界遺産協会」常任理事

「旅行地理検定試験」の1級試験で日本一位を獲得し、海外旅行地理博士の称号を得る。以後、5期連続日本一となり、日本で初めて海外旅行地理名誉博士の認定を受ける。また世界旅行地理検定上級試験で最高得点賞を4年連続受賞。世界遺産検定の最高位「世界遺産検定マイスター」に、第一期生で合格。3つの検定の最高峰を手に入れている唯一の人物。これまで400近くの世界遺産を見聞し、全国各地の大学や公民館で生涯教育講座を行い、カリスマ講師として人気を博す。

GLOBAL VOYAGE
2025 Spring

CONTENTS

特集

世界遺産検定マイスターによる

世界遺産 入門篇…………… P3

訪ねる前に知っておきたい
世界遺産はじめての一步…………… P4

これは知っておきたい、
世界遺産の基礎知識 Q&A…………… P6

世界遺産を知ることは異文化理解、
それが世界平和につながっています…………… P8

ピースボートスタッフに聞きました
乗船時にいつも持っていく
アイテムは何ですか?…………… P10

第二特集

七つの丘に抱かれる陽光の都市
リスボン…………… P12

歩いて感じる「海の王国」の記憶。
リスボン歴史紀行…………… P13

トラムが誘う、
絵本のような坂の街…………… P14

哀愁の歌声に宿る、
ポストガルの魂…………… P15

新クルーズディレクター紹介…………… P16

PEACE BOAT NEWS…………… P18

訪ねる前に知っておきたい

世界遺産 はじめての一步

「世界遺産を訪ねる前に、知っておいていただきたいことがあります」と片岡さん。それは、なぜ世界遺産になったのか、という登録基準です。すべての世界遺産には登録基準があり、そこを知っていると、見方もまた違ったものになります。



世界文化遺産

World Cultural Heritage

世界自然遺産

World Natural Heritage

世界複合遺産

Mixed Cultural and Natural Heritage

世界遺産とは何か、の前に世界遺産が生まれる発端からお話します。1960年にエジプトでナイル川上流にアスワンハイダムの建設が計画されました。しかしこのダム建設により、古代エジプト時代に建造されたアブシンベル神殿が水没することが分かりユネスコが音頭をとり「人類の宝を救おう」と世界各国に救済を求め、神殿を移築して守ったのがきっかけです。ユネスコは、今後もうこういうことが起こりうるを考え、世界的な価値のある遺産を守っていこうという機運が高まりました。そして1972年に「世界遺産条約」が生まれました。この条約の素晴らしい点は文化遺産と自然遺産の両方を守るものです（両方備えたものは世界複合遺産）。世界遺産は有名観光地が多いのですが、観光地としてのお墨付きではなく、次世代に大切に残していく人類共通の宝もの、ということであり、その宝ものをどのようにして守るか、という仕組みが世界遺産条約です。現在、世界遺産条約のリストに載っている世界遺産の数は1223件です。

海に浮かぶ修道院都市。世界遺産登録基準(i)「人類の創造的才能」の傑作とされる「モン・サン・ミッシェル」の絶景。

登録基準を知り、調べる。 それから世界遺産を訪れると 感動がいつそう高まります。

皆さんが世界遺産を訪ねるとき、覚えておいていただきたいのが世界遺産の登録基準です。登録基準は10項目あります。たとえば登録基準「i」は、人類の創造的資質を示す傑作です。外国の世界遺産ではピラミッド、タージマハル、マチュピチュ、モン・サン・ミッシェルなどがあり、日本の世界遺産では姫路城、厳島神社などが代表的なもので、その国を代表する文化財が登録されています。

自然遺産の登録基準は「vii」から「x」まであり「vii」は自然の美しさ、「viii」は地球の歴史、地層、化石など、「ix」は貴重な生態系、「x」は生物の多様性、絶滅の恐れのある動植物がいる、といった基準になっています。

ではここで二つ問題です。日本の自然遺産である知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美大島などの4つの島のうち、世界遺産的に最も美しいところはどこでしょうか。どこも素晴らしい自然の風景が広がっていますが、登録基準

の自然美「vii」

で認められているのが、屋久島

だけなので、あの意味、屋久島

が世界遺産的には一番美しいとも言えます。世界遺産の価値を的確に知るためには訪れる予定の世界遺産がなぜ人類の宝ものとして認められたかを事前に調べておくことです。さらに、どのようにしてできたのか、時代背景はどうだったのかなど関連情報を理解したうえで訪ねると、世界遺産の味わいがいっそう深いものになるでしょう。

厳しい登録基準で選ばれた世界遺産には、絶対になくってはならないものがあります。それは「顕著で普遍的な価値」をもっていることです。「Outstanding Universal Value」＝「OUV」省略されますが、時代、民族、国境、宗教を超えて素晴らしいと思われる価値をもっていること。それが世界遺産たる所以です。

登録基準は10項目

(i)～(vi)文化遺産、(vii)～(x)自然遺産に適用

人類の才能(i)

人類の創造的資質を示す傑作。

文化の交流(ii)

建築・技術・都市計画、景観の発展において、価値観の交流を示すもの。

文明の証拠(iii)

現存する、あるいは消滅した文化的伝統、文明の存在に関する独特な証拠を示すもの。

建築の発展(iv)

人類の歴史において代表的な段階を示す、建築様式、建築技術、景観の顕著な見本。

独自の集落(v)

ある文化を代表する伝統的集落や土地・海上利用の顕著な見本。

大きな出来事(vi)

顕著な普遍的価値をもつ出来事。現存の伝統・思想・信仰・芸術的、文学的所産と関連するもの。

自然美(vii)

ひととき優れた自然美や美的重要性をもつ自然現象や地域。

地球の歴史(viii)

地球の歴史の各主要段階を示す顕著な見本。

独自の生態系(ix)

生態系や動植物の進化発展に関する生態学的、生物学的過程を示す重要な例。

生物多様性(x)

学術上、環境保護上価値をもつ、生物多様性の保全のための自然生息域。



イスタンブール歴史地域／トルコ(ii)



アンコール／カンボジア(i)



ハロン湾／ベトナム(vii)



ペトラ／ヨルダン(iii)



グレート・バリア・リーフ／オーストラリア(ix)



グランドキャニオン／アメリカ(viii)

世界遺産を
知れば知るほど
旅が面白く
なりますよ



これは知っておきたい、 世界遺産の基礎知識Q&A

世界遺産を知りつくす片岡さんに、入門篇にふさわしい基本的な質問に答えてもらいました。旅人にとって世界遺産はとても魅力ある観光スポットですが、その実態は意外に知られていません。まずは「イロハ」から学んでください。

Q 世界遺産はどうやって決まるのですか

A 世界遺産条約を締結している各国では国内の暫定リストを作成します。日本の場合には文化庁、環境省、林野庁などが候補を挙げてきます。このなかから条件が整ったものを1件ユネスコ世界遺産センターに提出し、世界遺産委員会に諮られた後、登録が決定します。



Q 毎年、登録される世界遺産の数は決まっていますか

A 世界遺産の数は現在1223件とかなり多くなっています。以前は無制限に申請できましたが、2020年から申請は1国1件となり、年間の審議件数も35件になっています。



Q 審議を待っているリストもかなり多いのですか

A 現在、世界遺産センターに提出されている暫定リストは約1760件あります。残念ながら長年候補リストに留まっている例もありますが、旅に出る前に訪れる国の暫定リストをあらかじめ調べて、観光先とするのも賢いと思います。将来的に世界遺産になる可能性があるので、私も機会があれば、暫定リストの場所を訪れています。先日ポルトガルに行ったときは「アルヴァロ・シザの建築群」を見学してきました。

Q 世界遺産に登録されてもおかしくないのに申請されていないものは？

A たとえばボリビアのウユニ塩湖は絶景として知られますが、今後もし国の考えとして申請されることはないでしょう。なぜならあの下には大量のリチウムが埋蔵されており、世界遺産に登録されると保全・保護のため開発できなくなる可能性が高いためです。



Q 世界遺産の登録の傾向はありますか

A あります。今の流行はシリアル・ノミネーションというもので、地理的にはつながっていない2つ以上の物件が2つの遺産として登録されるものです。例えば日本の「明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」は、旧グラバー邸、松下村塾、軍艦島など単体では世界遺産になれなくても、これらをひとまとめに括って23の構成資産で日本の工業立国としての土台を築いた、という一つのストーリーのもとで評価される。近年はこうした傾向がありますね。もう一つは「グローバル・ストラテジー」と



いつて地理的・時代的な不均衡を直すための試みです。まだ世界遺産をもっていない国の審査を優先させましょう、先史時代の物件や近代建築などを積極的に登録していきましよう、という遺産の偏りを修正していく考えに基づくものです。



Q 一度登録されると、永遠に世界遺産ですか

A いえ、登録を取り消された物件が、これまで3件あります。世界遺産としての価値を守る努力を怠ると取り消されます。オマーンの「アラビアオリックス保護区」は油田開発のために保護区の90%以上を売却してしまいました。ドイツの「ドレスデン・エルベ渓谷」は交通渋滞解消のため橋を二本かけたため景観が損なわれました。イギリスの「リヴァプール」は都市開発によって歴史的価値が損なわれたと判断されました。

Q 世界遺産の数が最も多い国はどこですか

A イタリアが60件で1番です。次いで59件の中国で、ドイツ、フランス、スペインと続きます。ここ10年で最も多く認定されているのは中国です。他に世界遺産登録にとっても熱心なのはトルコ、イラン、インドなどで、これは国の指導者によるところも大きいと思います。国のアピール材料として考えているのではないかと思います。





例えばタージ・マハル、カンボジアといえばアンコール・ワットがその国の象徴として思い出されます。アンコール・ワットができたのは約1000年前です。日本というと、去年放映されていた大河ドラマ『光る君へ』の舞台、平安時代中期です。平安時代にカンボジアではあ

だけの石造建築ができ、さらに最先端の水利設備が整っていたわけです。当時カンボジアは先進国であり、日本はアジアの辺境国だったわけです。世界遺産はただ行つて見て「綺麗だった」で帰ってくるものでなく、なぜそうなったのか、どうやってできたのか、背景や内容を知ってから見ることでいっそう理解が深まります。この相手を知る、

ピースボートクルーズは 人との交流が最高の宝ものになります。

最後にピースボートクルーズの魅力についてふれておきます。私は直近ではVoyage 118のクルーズに乗船しましたが、何回乗っても思う素晴らしさは、人との交流ですね。それは二つあつて、一つは船内での参加者同士の交流です。最初はまったく知らなかった者同士、老若男女、千数百人がだんだん一つになつていく、あの一体感はピースボートならではのものでしょう。また誰もが自主企画を主催でき、主役になれるのも素晴らしいです。もう一つの交流は寄港地で現地の人々と過ごす時間です。一般的な観光旅行とは違う

て、その国の実際の暮らしぶり、人々の考え方、その国の社会問題などにふれ、学ぶことができる貴重な機会です。これも異文化理解になりますね。もちろん寄港地に世界遺産があれば足を運びます。私はたいてい参加者の皆さんと一緒に出かけます。世界遺産は何度訪ねても感動があります。これを読んでいただいている皆さんとも、いつかピースボートクルーズでお会いできることを楽しみにしています。



相手の国を知ることが、一人ひとりに平和の心を宿すのです。ですから世界遺産を知ることには世界平和につながるのです。



世界遺産を知ることが 異文化理解、 それが世界平和に つながっています。

ピースボートクルーズにおける片岡さんの世界遺産講座は毎回大変な人気です。講座において片岡さんは、参加者の皆さんに観光の魅力を紹介するとともに異文化を理解することが世界平和につながっていくことを訴えかけます。

私はこれまで、ピースボートクルーズに何度も乗船し、水先案内人として世界遺産についての講座を担当してきました。そこでは、世界遺産を学ぶ本当の意義についてもお話ししています。世界遺産を決めるのは、国連の専門機関であるユネスコです。国際連合そのものが、第二次世界大戦後に「戦争や紛争の再発を防ぎ、世界の平和と安全を守る」ことを目的に誕生しました。なぜ戦争が起きるのか。理由の一つに、異なる文化や考えを知らない「無知」があります。かつての日本も、軍国主義のもとに開戦しましたが、もし広く国際社会の現状や相手国の実情を知る機会があれば、選択肢は変わっていたかもしれません。無知を防ぐには、教育こそが鍵です。

ユネスコ憲章の前文には「戦争は人の心のなかで生まれるものであるから、人の心のなかに平和のとりでを築かなければならない」と記されています。この「平和のとりで」とは、異文化を理解し尊重する心のこと。世界遺産はまさにその象徴です。それぞれの国が世界に誇る財産を知り、理解し合うことが、平和への一歩なのです。

たとえばエジプトといえばピラミッド、中国といえば万里の長城、インドと

片岡さんの著書で、 世界遺産のこと、 楽しく学べます。

美しい写真とシンプルなQ&Aで展開されるビジュアル図鑑『世界でいちばん素敵な 世界遺産の教室』（三オブックス）と、小学生のための世界遺産入門の決定版『ドラえもん社会ワールドspecial みんなのための世界遺産入門』（小学館）、好評発売中です。



小物を掛けたいときに
マグネットフック



船室の壁は磁石がくっつく箇所が多いです。丈夫で耐荷重量の大きい超強力マグネットフックだと、さまざまなものを掛けられて重宝しますよ。

乾燥からお肌を守る
フェイスパック



船内の空気は、空調のため乾燥しやすいです。また、海外の日差しはとても強いので、日焼け後のケアとしても欠かせずパックを使用しています。

同室者との連絡やメモに
ホワイトボード



部屋にいない時間も多いため、同室者に伝えたいことがある時や、メモ代わりに活用しています。※船室外への掲示はできませんのでご注意ください。

気持ちを添えたいときに
小さいレターセット



感謝のメッセージを送ったり、ちょっとした寄港地のお土産を渡す時にも。ひとこと添えるのに役立ちます。

ピースボート
スタッフに
聞きました

乗船時にいつも 持っていく アイテムは何ですか？

何度も船旅を経験しているピースボートスタッフに、乗船時に欠かせない持ち物をインタビュー！ 便利グッズから意外なアイテムまで続々登場しました。これを見れば、持ち物準備も安心。快適な船旅のためのヒントが満載です！

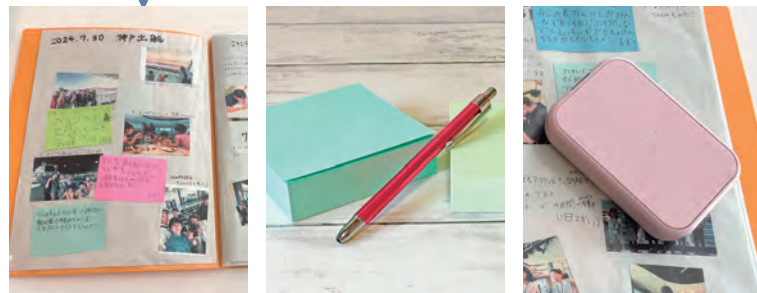


クローゼットを有効活用
吊せる収納ケース



クローゼットを使いやすくアレンジする吊せる収納ケースも便利です。※3～4人の相部屋では場所をとるため不向きです。

日記づくりや旅のパンフレットの保存などに便利
ファイルと付箋とスマホプリンター



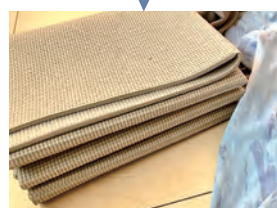
日記代わりのコメントを付箋に書いて、ベストショットをプリントすれば、その日のうちに旅の記録が完成します。また、取っておきたい資料はファイルへ入れるだけでOK。

いつでも水分補給
水筒(1リットル)



船内や寄港地の水分補給に。給水回数を減らせるように1リットルタイプを持参しています。浄水機能付きなら寄港先でも飲み水に困りません。

コンパクトでかさばらない
たためるヨガマット



置いておくには、意外とかさばるヨガマットですが、たためるタイプならコンパクトになるので場所を選ばず収納できますし、持ち運びにも便利です。

自分のサイズに合った
小さめのハンガー



船室備品のハンガーは肩幅が大きい(約45cm)なので、体形に合う小さめのハンガーを持参しています。滑り止めのついたものがおすすめです。

収納力をサッと増やせる
たためる収納BOX



お土産や物が増えたときに必要に応じてサッと広げて使えます。使わないときは畳んでしまっておけますし、蓋つきのタイプなら重ねることもできます。

体調管理のためにおすすめ
ペーパー加湿器



船室内の乾燥対策として持参します。コンパクトな折り畳み式なら宿泊先への持ち運びにも便利。デザインも種類あり、インテリアとしても楽しめます。

心地よい眠りのために
安眠グッズ



船旅を存分に楽しむためには、質のよい睡眠が欠かせません！ご自身にあったアイテムで安心すやすや睡眠を。

手拭きや汗拭きに大活躍
手ぬぐい



タオルよりも乾燥が早くかさばらないので、船内ではもちろん、荷物をコンパクトにしたい寄港地での外出時にも重宝しています。

七つの丘に抱かれる
陽光の都市

リスボン



Lisbon/Portugal

ヨーロッパ有数の観光スポットを誇るポルトガルは、世界中から観光客が集まり年々その数が増えています。首都リスボンは丘に囲まれ、その歴史は大航海時代まで遡り、喜望峰やインド航路を発見し、隆盛を誇った旧き時代の建築物や遺構が残っています。小さな街ですが、アートや自然、グルメが存分に楽しめます。



かつてはテージョ川の入りを守る要塞として、今はリスボンの象徴として静かに佇む白亜の「ベレンの塔」。マヌエル様式を代表する美しい装飾も特徴。



巨大な帆船の形をした高さ52mの記念碑「発見のモニュメント」。

遥かなる航海の夢が始まった街、リスボン。かつて大航海時代の出発地として、ヴァスコ・ダ・ガマがここから新天地へ旅立ちました。テージョ川のほとり、七つの丘に抱かれた街を歩けば、白壁と赤屋根のコントラストが美しい街並みが陽光に照らされて目に映ります。大航海時代の栄光、震災からの復興、そして現代的な文化も共存する街から歴史とロマンを感じられることでしょう。古い路面電車が坂道をのんびり登り、石畳の道に響く音が旅情を誘う。世界遺産や歴史的建造物、美しい展望台に心を奪われながら、リスボンならではの彩り豊かな時間を楽しんでください。

歩いて感じる

「海の王国」の記憶。
リスボン歴史紀行。

リスボンは「発見の時代」の記憶を刻む街。その起点となったベレン地区には、ポルトガルの海洋国家としての栄光が凝縮されています。まず目を引くのが、テージョ川に寄り添うように建つベレンの塔。装飾が細やかな石造りの塔は、かつての防衛の要であり灯台で、まるで海から浮かび上がった守り神のように建っています。すぐ隣には、帆船の帆を模した「発見のモニュメント」。大航海時代を支えたエンリケ航海王子と、大航海に携わったポルトガル人たちの像が、今もなお、前方を見つめています。

川沿いから徒歩圏内にあるマヌエル様式の「ジェロニモス修道院」は、世界遺産にも登録された壮麗な建築。奥にある「サンタマリア教会」もお見逃しなく。探検家ヴァスコ・ダ・ガマの石棺が静かにその歴史を物語ります。建物全体に施された緻密な彫刻と高い天井は、訪れる者を圧倒する美しさです。



上空から眺める「ベレンの塔」は水中に浮かぶ彫刻のよう。地上からとは異なる神秘的な表情を見せてくれる。

街の中心部へ移動すれば「サンベドロ・アルカンタラ展望台」からのパノラマが待っています。赤茶色の屋根と青い空、そしてゆるやかな坂道がつくる風景は、絵画のようです。さらにロマネスク洋式の「リスボン大聖堂」は、リスボンの歴史を物語るシンボルの一つであり、千年を超える歴史と信仰に触れることができます。ここを起点に、アルファマの石畳を散策したり、この国の代名詞とも言える伝統的なトラムで街を巡ったりと、見どころは尽きません。どこを歩いても、歴史と風景がやさしく語りかけてくる、それがリスボンです。



1:「サンタマリア教会」は広大で荘厳な空間に静けさが漂う。2:リスボン屈指の名建築と称される「ジェロニモス修道院」。荘厳な外観は彫刻と石細工の芸術品。3:教会内部に置かれるのは大航海時代の探検家、「ヴァスコ・ダ・ガマの石棺」。4:幾何学模様のアーチが連なる修道院の回廊はマヌエル様式の美が凝縮されている。5:修道院内部は時間が止まったかのような神聖さに包まれている。



1



4



6

4: レストランではプロの歌手のほか地元の人が一曲歌うこともある。5: 繊細な旋律を奏でるポルトガル・ギター。6: 船内で開かれたファドのショー。



5

哀愁の歌声に宿る、ポルトガルの魂

ファドはポルトガルの魂を映す伝統音楽。19世紀初頭、リスボンの港町で生まれ、長いあいだ人々の心を癒し、今も歌い継がれています。運命を意味するその名の通り、人生の喜びや哀しみ、あるいは痛みを旋律にのせて紡ぎます。特徴的なのは、12本の弦を持つポルトガル・ギターの繊細な伴奏。歌手の声に寄り添い、ときに涙のように響きます。リスボンやポルトのレストラン

では、今も生演奏が行われ、キャンドルの灯りのなかで耳を傾けるファドの演奏は、旅の記憶に深く刻まれることでしょう。そしてピースボートの船上でも、ファド歌手を招いた特別なショーが行われることがあります。広い海の上で出会う哀愁の歌声は、まるでポルトガルの風景そのもののように、静かに心を揺らしてくれます。



カタンコトン走る黄色のトラムはリスボンの街を象徴する風景の一つ。

トラムが誘う、絵本のような坂の街

アルファマ地区は、リスボンらしさがぎゅっと詰まった坂道の街で、とりわけ絵になるシーンが広がっているエリアです。黄色いトラムがカタンカタンと音を立てながら、迷路のような石畳をすり抜けていきます。沿線には「リスボン大聖堂」や「サンジョルジュ城」など、見逃せない名所が点在し、車窓からの眺めも楽しめます。



1: テージョ川に面した開放的な「コメルシオ広場」は黄金のアーチが印象的で、ヨーロッパらしい優雅さを感じられる。2: 地元の人と肩を並べてランチタイム。新鮮な魚介に舌鼓。3: おとぎ話の世界から現れたようなカラフルな宮殿「ペーナ宮」は見る角度ごとに異なる表情を見せてくれる。

高台にある「サンペドロ・デ・アルカンタラ展望台」からは、赤い屋根とテールジョ川が織りなす、まるで物語の挿絵のような風景が一望できます。ふもとには「コメルシオ広場」が広がり、広場沿いには地元の人に混じつてのんびり過ごせる街角のカフェがあり、息つくのに最適。足を延ばせば、ディズニー映画にでてくるようなお城の外観の幻想的な「ペーナ宮」や、大西洋を見渡す断崖絶景「ロカ岬」にも日帰りで訪れることができます。坂の多い街ですが、どの景色も美しく、心をふっと軽くしてくれます。



「ここに地果て、海始まる」一詩人カモンイスの言葉が刻まれた標柱が立つロカ岬は、ユーラシア大陸の最西端。空と海が一つになる光景に思わず息を呑む。



海と大地の恵みを一皿に詰め込んだ「豚とアサリの煮込み」。南ポルトガルの風土が生んだクセになる逸品。



ポルトガルの食卓に欠かせない国民食、塩漬け干しダラを使った「バカリャウ」。



ぶりぶりのエビと野菜にオリーブオイルとレモンが香る前菜。



グリルでこんがり焼かれた「イフシのグリル」。骨ごと味わうのが地元流。



ポルト発祥のパンチのあるガッツリ系サンドイッチ「フランセジーニャ」。



ワインの名産国にはそのラインアップも豊富。地元料理とともに味わいたい。



外はサクッ、中はとろりとした名物スイーツ「パステル・デ・ナタ」。

クルーズディレクター

椎名 慈子 SHIINA Noriko

今年8月に出発するVoyage121でクルーズディレクターを務めるのが椎名慈子。クルーズディレクターとしては今回が初乗船となります。「フットワーク良く動いて皆さまの声に耳を傾けたい」という椎名にVoyage121へ向けた思いなどを聞きました。

茨城県の実家は千葉周作が創始し、坂本龍馬が学んだ道場としても知られる北辰一刀流の宗家。父の椎名市衛氏が2013年に宗家を継いだ。今回のクルーズディレクター就任にあたって「謙虚さと感謝を忘れずに」という言葉も父から贈られたもの。



「皆さまの声を聞きながら、素晴らしい旅を一緒につくっていきたいと思っています」

ピースボートとの
出会いから教えてください。

高校卒業後、日本以外の場所を知りたくて留学を考えていたところ、姉の友人がピースボートに乗船したことを聞きました。ボランティアスタッフをする旅費が割引かれ、世界一周で多くの国を訪ねられることに魅力を感じ、方向転換しました(笑)。18歳の夏に初めて乗船し、素晴らしい体験をしました。

初めての船旅ではどのような
思い出がありますか。

何も知らない若者でしたから船内でゲストの話を聞くのも刺激的で、自分の知らない世界がたくさん広がっていました。ヨルダンのパレスチナ難民キャンプで話を聞かせてもらったり、カンボジアでは地雷検証ツアー、キリング・フィールドなども訪れ、自分としては受けとめきれずにキャパオーバーになりましたが、社会的な問題に関心をもつきっかけにもなりました。また当時は10代の参加者も多く、同世代の仲間と旅をする楽しさもありました。

帰国後すぐにピースボート
スタッフになったのですか。



スタッフの人たちがイキイキと仕事をしているのを見ていて、憧れのようものはありません。自分では務まらないと思っていた。でも「進路が決まっていなければ3ヶ月でもいいからやってみない？」と誘ってもらい、バイト感覚からスタートしました。やってみて分かったのは皆さんの思い、気持ちですね。それぞれ業務も違うし、進め方も違うけれど、「船を出す」という一点は共通していて、そこへの心持ちの強さを感じて凄いなと思い、「私もここで仕事をしたい!」となりました。

ピースボートスタッフとしては
何回乗船していますか。

これまで地球を6周しました。だいたい、1年に1回くらい乗船してきた感じです。船内新聞、カルチャースクール、船内企画の運営などさまざまな仕事に携わってきました。ピースボートの魅力の一つが船内企画だと思いますが、そこでは参加者が主役になるんですね。たとえば大きなステージで数百人を前に発表会をしたり、スポットライトを浴びるチャンスがあります。その参加者の達成感に満ちた顔をみると「この企画を立てて良かった」と嬉しく思うし、やりがいも感じますね。あとは素敵に年齢を重ねていращやる方が多いので「自分もこんな大人になつていきたい」と思いますし、最近では海外の方も多く乗船されるので船内で異文化交流できるのも魅力です。

Voyage121で
クルーズディレクターを務めます。
決まったときは
どう受けとめましたか。

就任に至る過程で周りから後押しいただきましたが、嬉しさ半分、不安が半分で(笑)、決断までけっこう時間がかかりました。ただ、自分一人で船を出すのではなく、仲間たちに支えてもらいながら、そして参加者の皆さんとともに素晴らしい地球一周の旅をつくれたら、と思います。決めることができました。



クルーズディレクターは
どのような役割を果たすのですか。

クルーズにピースボートスタッフは約70名乗船しますが、その代表がクルーズディレクターです。船内企画の運営を統括する立場になりますが、一言でいえばピースボートの「顔」です。また、参加者の方々がより船内生活を楽しんでいただけるように、皆さんと常に

初めてクルーズディレクターを
務めるうえで
抱負を聞かせてください。

実は私、一度ピースボートを離れているんですね。別の仕事をしました。が、やはりここで経験できるもの以上のものはないと思って戻ってきました。そのとき思ったのは、それまでは誰かが企画をしてくれたものに便乗して出会いや学びを重ねてきました。が、これからは自分もしっかりと船旅をつくる一員になって、自分が経験できたことを多くの人に提供できるようにになりたい、ということでした。Voyage121も乗船いただく皆様にとって一生に一度の唯一のもので、かけがえのない日々をお預かり



するので謙虚さと感謝を忘れずに誠心誠意頑張ります。

参加者の皆さんへの
メッセージをどうぞ。

船内企画も楽しんでいただけるものをはじめ、学んでいただけるものなど、多彩な内容を準備中です。また多くの名所やオーロラなど観光面でも楽しみが多い船旅になりますので、どうぞご期待ください。私自身は皆さんのお話しやご意見を聞きながら、一緒に最高の旅をつくっていききたいと思っています。皆さまの声に耳を傾けるのが一番の仕事と思っています。至らない点など気づかれたことがありますら遠慮なくご指導ください。若さを武器に(笑)船内を動き回って、汗を流して役目を果たしていきますので、どうぞよろしく願いいたします。





PEACE BOAT NEWS

PBV 公益社団法人として 新たなスタート

PBVは2011年の設立から14年で
公益社団法人に移行認定になったそうです。

はい。ただそもそもピースボートの災害支援活動スタートは1995年の阪神淡路大震災までさかのぼります。30年前に阪神淡路大震災があったとき、被災者の皆さんに行政支援をはじめ、どこでどういう支援を受けられるかといった必要な情報を掲載した新聞を発行しました。スマホもなかった時代に画期的な支援だったと評価されています。しかしピースボート

は国際交流の船旅の事業があり支援を3ヶ月で終了せざるを得なかったのが教訓として残りました。その後も国



内外で災害が起きたとき、スポットで支援活動は行っていました。東日本震災のとき、それまでの経験から、復旧復興に携わっていくためには継続的に支援できる組織づくりが必要なのではないかと考え、災害支援を専門とする法人を設立しました。発災の約1ヶ月後4月19日に一般社団法人ピースボート災害支援センターを立ち上げました。そこから数えると14年になります。

PBVはこれまで国内87地域、海外31ヶ国以上で災害支援に携わってきましたが、その在り方はこの14年で変わってきています。

近年は気候変動の影響もあり、広域のかつ長期的支援が必要な災害が起

このたびの公益社団法人の認定を
どのように受けとめていますか。

私たちの活動がより公共性の高い事業として社会に認められたことになりました。組織としては今までも取り組んできたことです。透明性、説明責任といったガバナンスが求められますから、しっ

かり継続しさらに優れた組織運営をしていきます。もともと公益社団法人への移行は視野に入れていたのですが、これまで公益法人の会計基準は「指定正味財産」といって、一つの災害に対して集まった寄付は当該する災害支援に活用するうえで繰り越せるのは1年だけで、大きな災害における長期支援には向いていませんでした。私たちとしてはそこがネックでしたが法改正によって、寄付を長期で活用できるようになったことも公益社団として申請した背景にあります。

そのほかどのような
メリットがありますか。

やはり信頼性が高くなると思います。一般の方が寄付するうえでも公益社団法人は、寄付金控除も受けられるので、寄付先としての認知度も上がると思います。私たちには「災害支援サポーター（マンスリーサポーター）」という継続的な月額寄付制度がありますが、公益化とともにさらに多くの方に応援いただき、被災地の支援や、日頃の防災・減災の



ピースボート災害支援センター
事務局長

上島安裕

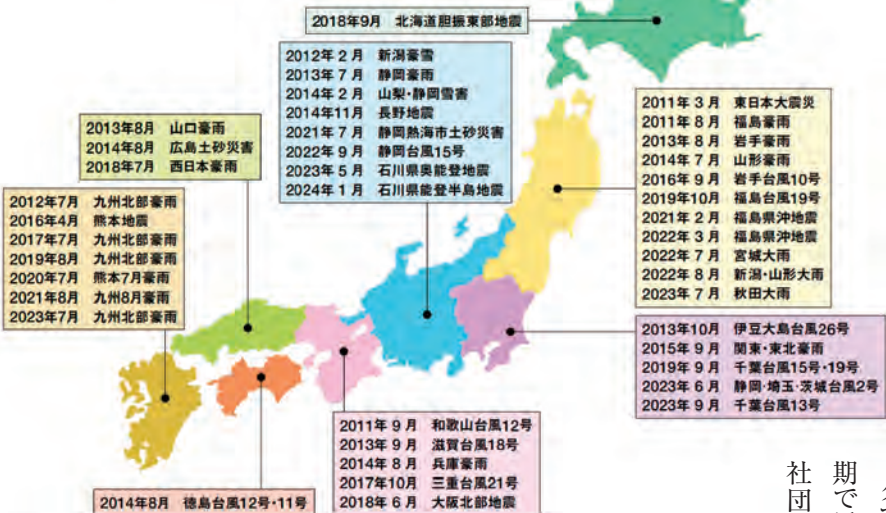
2007年の新潟中越沖地震より災害支援活動をはじめ、国内外で80を超える国と地域で活動を行ってきた。現在はPBV事務局長として国内外で起こる自然災害への支援と共に、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）の運営委員および専門委員として、災害前からの防災・減災への取り組みを行っている。



ピースボート
災害支援センター

【公式サイト】<https://pbv.or.jp/>

国内での主な災害支援 ※2024年3月現在



の支援や、日頃の防災・減災の

研修、全国的なネットワーク、人材育成に活用していくことを考えています。

今後、力を入れていく活動はありますか。

先ほどお話しした官民連携は大きな流れになっています。行政が災害支援の際に民間団体をパートナーにするときの窓口として国内団体から成る「全国災害ボランティア支援団体ネットワーク（JVOAD）」が組織され、私も運営委員として設立から関わっています。私たちは災害支援では現地のニーズに合わせ多様な支援方法を持っており、避難所運営、物資支援、食事支援、生活支援などを提供します。被災者が尊厳ある生活を営むための国際基準である「スフィア基準」という言葉も最近認知されてきましたが、必要な支援が届くように調整しながら包括的にサポートができる団体はまだ少ないので、JVOADを通して、ノウハウや知識を社会に広げていくことも公益団体としての役割だと思っています。

PBVとしてのトピックはありますか。

今2台のキッチンカーを所有し佐賀と能登半島で稼働させています。平時は

継続的なご支援のお願い

災害支援サポーター (マンスリーサポーター)

PBVは引き続き関連団体と連携し、現地のニーズに合わせた支援を行います。長引く支援活動に、継続的なサポートをよろしくお願いいたします。



募金方法

クレジットカード

読者の皆さんへメッセージをお願いします。

災害は起こったときは注目されるのですが、時間とともに忘れられがちで、なかなか自分事になりづらいと思いますが、寄付金控除の対象にもなりますし、マンスリーサポーターなどを通して災害支援、防災活動に常に関心をもちたいだけと幸いです。今後も皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。



船上百景 [カラオケ]



毎回盛り上がる、カラオケ大会は人気イベントの一つ。



12階のプラチナスタジオでは気の合う仲間同士で盛り上がっています。



楽器の練習スペースとして利用する人も。

自慢の一曲を披露
多国籍参加のカラオケ大会

洋上でグループで集まれば「さあ、カラオケ」となるケースも少なくありません。12階のプラチナスタジオでは、世代を超えて毎日、歌声が響きます。グループだけではなく、船内全体で盛り上がる恒例イベントとして開催されているのが「カラオケ大会」。多数の応募者がいて毎回抽選になるほどです。大会近くになるとスタジオは練習する参加者で稼働率はさらに高くなります。曲のジャンルは、演歌、J・POP、洋楽とバラエティに富み、最近では特に多言語での熱唱が続きます。歌に合わせて手拍子がわき、一緒に口ずさんだりして参加者も聴衆も一体になります。歌声の素晴らしさはもちろん、衣装に凝ったりバックダンサーを従えて登場したりと参加者のパフォーマンスが会場をいつそう盛り上げます。



「わしは船に乗るたびに、心が躍るがじゃ」——これは幕末の志士坂本龍馬が、船で海に出る喜びについてたびたび手紙で表していた言葉です。今号でご紹介しているVoyage 121のクルーズディレクター椎名慈子は、そんな坂本龍馬も学んだ剣術「北辰一刀流」の宗家となる家に生まれました。北辰一刀流では、剣技だけでなく、自ら考え、自らの道を選ぶ心の構えこそが真髄といえます。船旅も、自分の意志で動き出すことから始まります。未知の世界へ飛び込み多くの人と出会い、まだ見ぬ世界を知る。

そんな船旅、Voyage 120が先日無事に出航しました。戦後80年の節目となる今年、「今こそ平和を」と掲げて世界中を巡ります。旅立ちは一ひとりの選択。その積み重ねが、やがて時代を動かし未来をつくる力になると、私たちは信じています。

最後に龍馬の有名な言葉をもうひとつ。「日本を今一度せんたくいたし申候」——この言葉、実は龍馬が海から見た日本を「洗いたい」と思った心情ともいわれています。ピースボートクルーズに乗船した皆さまが、海から世界を見て何を思ったのか、出帆した港に戻る8月にまた聞いてみたいところです。心躍る船旅の話。（井上 編集部）